

## 第4学年3組 社会科学習指導と評価の案

日 時：平成17年10月5日（水）第3校時

授業者名：狛守 秀一

場 所：北舎3階4年3組教室

1. 単元名 「きょうどにつたわるねがい」 ～高山に初めて電とうをともした住民平～
2. 単元の目標 100年前、高山に初めて電灯をともした住民平の偉業や人間像に興味をもち、電灯をともすまでにどのような苦労や努力があったのかを知ることができるとともに、当時の人々の生活や意識について具体的に考え、追究資料で見通しをもって調べながら、意見交流をしたりして、考えをさらに深めることができる。
3. 身に付けさせたい力
  - ① 学ぶ意欲 : 住民平の人物像に興味を持ち、その功績について継続的に追究していく意欲。(関心・意欲)
  - ② 学ぶ力 : 当時の町民の暮らしや住民平の業績を課題から予想し、既習内容や追究資料からの確に読み取り、仲間と交流しながら、自らの考えを表現する力。(思考・判断)
  - ③ 学び得た力 : 既習内容や追究資料を使って、さらに自分の考えを深め、当時の町民の暮らしや住民平の業績について知り得た力。(知識・理解)(表現・技能)
4. 指導に関わって

### (1) 教材観

この単元で子どもにつけたい見方や考え方は、「地域の開発、教育、文化、産業などの発展に尽くした先人を取り上げ、それらの先人の働きや苦心が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことを具体的に考えることができるようにすることである。」(『小学校学習指導要領解説』p. 41)しかし、昔の出来事を具体的に考えることはなかなか難しいと言える。

すみんべい 住民平 (1847年~1922年)
1879年 高山町議会議員となる
1898年 鉄道導入活動助成
1901年 電気供給営業許可願 却下
1904年 高山に電灯出すことに成功

ところで、現代の私たちの生活で電気は欠かすことのできないエネルギーとなっている。児童にとっても生まれた時から既に電気に囲まれた生活をしており、その有用性についてはむしろ考えずに生活していることがほとんどではないであろうか。昨年、高山に電気がともって100周年を迎えた。そこで、本単元では「地域の発展に尽くした具体的事例」として、高山に初めて電とうをともした住民平を取り扱う。住民平は1847年、高山町向町(現高山市本町三丁目)で生まれた。先進的で聡明な見識、行動力と強い郷土愛を持った同郷の江馬弥平に影響を受けた住民平は事業欲が旺盛で、養蚕業をはじめ、鉄道事業、電気事業など、様々な事業に着手する他、消防団としての活動も長年行っている。しかし、これらの活動は単に事業欲が旺盛ということだけではなく、郷土に対する強い思いが民平を動かしたと言っても過言ではない。実際、彼は飛騨

の人々に反対され理解されない中で事業開発のため東奔西走し、自らは家を失い借金を重ねているため、郷土の為にまさに全てを投げ出しているといえる。本単元では住民平の活動の成果や苦労を資料・年表を通して読み取り、彼の功績を知ると共に、信念に基づき行動する彼の生き方から人の為に行動することの素晴らしさを共感させたい。

### (2) 児童の実態

	目指す姿	学年で目指す姿	児童の実態	つかむ手立て
学ぶ意欲 (関心・意欲)	・自ら課題を持ち、追求していく姿	・個人でも課題を持つことができ、上位の児童は自ら新しい課題を見つけることができる姿。	A 個人でも「どうして〇〇なのに」という課題意識を持つことができる。(5人) B 集団では「どうして〇〇なのに」という課題意識を持つことができる児童が多いが、個に戻ると「〇〇は何ですか」という課題しかもてない。(23人) C 課題を持つことができない。(4人)	・学習した中から生まれた新しい疑問を課題にして書かせる。
学ぶ力 (思考・判断)	・資料や生活経験・既習内容・仲間の考えから課題を解決し表現できる姿。	・2つ以上の資料から課題を追究する力。 ・仲間の意見と自分の意見の違いを見つけ深める姿。	A 複数資料を使って、考えを類型化することができる。(8人) B 1つの資料から意見をノートに書くが発表へと結び付けない。(18人) C 資料からの読み取りができない。(6人)	・ノートや発表から児童の実態を知る。
学び得た力 (技能・表現) (知識・理解)	・新たな課題を持ち学び得た力で解決する姿	・既習内容から新しい課題を持ち、自分なりに解決していこうとする姿。(学習プリントを渡し、自宅学習で取り組むなど)	A 自ら調べ学習したことからさらに疑問を持つことができる。(7人) B 自ら調べ学習をしたことをしっかりと取り組むことができる。(20人) C 自分で解決することができない(5人) *昔の道具調べから	・学習したことをまとめ、新しい疑問を書かせ、調べる。

(4年3組 男子15名、女子17名、計32名)

4年生の社会科「住みよい暮らしをつくる。1、ごみの処理と利用 2、みずはどこから」「きょうどにつたわるねがい。1、昔の暮らし 2、秋の高山祭り」では調べたいことの内容や資料収集の質・量に差はあるものの多くの児童が自ら課題を持って、意欲的に調べ学習を進めると共に学習した内容をまとめる力を身に付けてきたと言える。ただ、自らまとめたことを発表したり、まとめたことから新たに疑問を出したり、さらには仲間と意見交流をし、新しい見方・考え方を生み出すといったところにやや力不足を感じる。本単元では、本校社会科の目指す授業である『課題を持ち、仲間と共に考えを深め合い、追究していく中で新たな見方・考え方が生まれる授業』を進めるため、資料追究から自らの考えを持つと共に、発表・交流する中で仲間との意見の違いを認め、様々な意見をもとに試行錯誤する中で新しい見方・考え方を育てるようにしていきたい。

第4学年3組 社会科学学習指導と評価の案

日 時：平成17年10月5日（水）第3校時

授業者名：伏守 秀一

場 所：北舎3階4年3組教室

1. 単元名 「きょうどにつたわるねがい」 ～高山に初めて電とうをともした住民平～
2. 本時の目標 住民平が発電所建設への協力を求めたことに対し、一度は協力をするといいた町民が協力することを止めてしまったのは、貧しい生活状態や電とうに対する無知、住民平への不信感といったところに原因があったことをつかむことができる。
3. 本時の評価規準 当時の人々が住民平に協力しなかった理由を新しい資料からだけでなく既習内容や仲間との交流から具体的に考えることができる。 <思考・判断>

4. 子どもづかみの具体

- 学ぶ意欲：補助資料から疑問を持ち、課題づくりへとつなげていくことが少しずつできるようになってきた。住民平の取り組みと当時の人々の行動の差から課題づくりができ、継続して課題に対して追究できる意欲を育てたい。（関心・意欲）
- 学ぶ力：自らの生活体験や住民平のそれまでの取り組みから予想を立て、追究資料をもとに自らの考えを表現するとともに、仲間と交流する中で高山の町民が住民平に協力しなかった理由について自らの考えを深めることができる。（思考・判断）
- 学び得た力：既習内容や追究資料から高山の町民が住民平に協力しなかった理由を理解することができる。（知識・理解）（技能・表現）

5. 本時の展開（7/12時）

学 習 活 動		研究テーマの具現のための手立て													
見 通 し を 持 つ	① 住民平が発電所建設へむけて取り組んでいることを振り返るとともに補助資料から本時の課題を設定する (補助資料提示・・・電気会社設立者名簿の印の取り消し) s 一度は協力する判を押してあるのにどうして取り消しの判がその上から押してあるのだろう。	<子どもにとって切実感のある学習課題設定の工夫> ・ 「電気会社設立者名簿の印の取り消し」の資料を提示し、一度判が押してあるその上に取り消しの判が押してあるところから意識のズレを起こさせる。 ・ 子どもが前時までの学習内容と補助資料を比べて疑問に感じたり、引っかかるところを出し合い、自分の言葉で課題へと結びつけることができるように発問を引き出す。 (研究内容Ⅲ-②) <学習課題に対する子どもの見方・考え方を引き出す学習活動の工夫> ・ 考えの足場となる複数資料を絵や写真、文章など形式の違うものを使うことによって、誰もが意欲的に学べるようにする。 ・ 資料別、個別、ペアといった学習形態をとることによって、自分の考えやすいものから資料を選んで考えたり、自分の考えを確認したりする。 (研究内容Ⅱ-③)													
	<課題>一度協力するといった町民が民平さんに協力することを止めてしまったのはなぜだろう														
追 究 す る	② 予想を交流する s お金がかかるからだと思います。 s 電とうの良さについてよく知らなかったからかな。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学びの状況</th> <th>よさが出るまで</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aの児童</td> <td>複数の資料から考えている</td> <td>複数の資料に着目していることを評価し、比較したり、さらに課題への考えを深めるよう促す</td> </tr> <tr> <td>Bの児童</td> <td>1つの資料から考えている</td> <td>資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す</td> </tr> <tr> <td>Cの児童</td> <td>選択資料に迷う</td> <td>「課題はどんなことを聞いている?」「どの資料から考える?」と投げかけ、どの資料で追究するか一緒に考える</td> </tr> </tbody> </table>			学びの状況	よさが出るまで	Aの児童	複数の資料から考えている	複数の資料に着目していることを評価し、比較したり、さらに課題への考えを深めるよう促す	Bの児童	1つの資料から考えている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す	Cの児童	選択資料に迷う	「課題はどんなことを聞いている?」「どの資料から考える?」と投げかけ、どの資料で追究するか一緒に考える
				学びの状況	よさが出るまで										
Aの児童	複数の資料から考えている	複数の資料に着目していることを評価し、比較したり、さらに課題への考えを深めるよう促す													
Bの児童	1つの資料から考えている	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す													
Cの児童	選択資料に迷う	「課題はどんなことを聞いている?」「どの資料から考える?」と投げかけ、どの資料で追究するか一緒に考える													
深 め る	③ 資料から課題追究をする (資料1) 当時の高山の明かりの状況 (資料2) 発電所建設資金の図 (資料3) 電とうについて話す町民	<新たな見方や考え方に気付く学習活動の工夫> ・ 一斉での学びあいの場を設定し、自分の考えを表現する場を設ける。 ・ 相手に分かる話し方の話形を示し、考えやつながりが分かるようにする。 ・ 考えを交流し、深めるための時間を保障する。 (研究内容Ⅲ-③)													
ま と め る	④ 調べたことを交流する。 ○当時の高山の明かりの状況について記述したより（資料1） s 石油ランプでさえお金持ちしか使えなかったんだな。 s ろうそくでももったいないので電とうに賛成しないんだな。 s 電とうはまだまだ早いと考える人が多かったんだな。 s つくったとしてもそんなに使わない。 ○発電所建設資金の資料より（資料2） s 建設資金にはすごいお金がかかっているな。 s いろいろなものをつくらなくてはいけない。 s 民平さんは全くお金がないのに協力してと言うのはおかしいな。 ○人々が電とうについて話す資料より（資料3） s 電とうの会社を作ることが変なこととされている。 s 民平さんはだまされているとされている。 s 水を使って火がつかないと思っている。 s うわさに惑わされて協力することを止めてしまったのかな。 ○ 民平さんは信用されていないのだろうか。														
	⑤ 江黒さんの話 住民平の行動は先を見越した行動だったけど、人々の暮らしの中に必ずしも必要とされているものではなかったし、人々からは信用もされていなかったから、協力してもらえなかったんだね。	試行錯誤させる教師の問いかけ * 子どもから出なかった場合 「みんなのためにいろいろとしてくれている民平さんは本当に信用されていないのかな。何か信用をなくすようなことがあったのかな。」 * 子どもから出た場合 民平さんが人々のためにいろいろと活動していることに触れている児童がいたら、民平さんが信用をなくしてしまうきっかけの鉄道事業の失敗に振り返らせ、人々の民平さんに対する思いを深く考えさせる。 <子どもの学びの状況に応じた指導・援助の工夫> ・ 多様な意見を引き出すために、教師が意図的に指名をする。 (研究内容Ⅳ-①)													
	⑥ 本時のまとめと自己評価 高山の人々が協力しなかったのは電とうのことをあまり知らず、また、お金もかかるし、民平さんを信用しきれていなかったからだと思います。			<追究したよさが実感できるまとめの工夫> ・ 資料や仲間との交流で深めた意見をキーワードで板書し、それを使ってまとめと感想を書くことによって認め、自信を持たせる。 ・ 課題に対してどのような取り組みができたか、自己評価チェックを行う。 (研究内容Ⅳ-②)											